

山形の未来医療を語る

医学部学生インタビュー

「ここで学んだこと」

山形大学医学部6年 高村 祐斗さん
(埼玉県立浦和高校出身)



元々医師になりたい、医師としてがんの治療に携わりたいという夢がありました。そのため全国の医学部の中でも、重粒子治療施設などを建設中で、がんの治療、研究に力を入れている山形大学を選びました。

6年間の教育の中で特徴的だと思ったのは、やはり臨床実習の期間の長さです。実際の医療現場で見るもの、聞くことは、それまで座学で得た知識ともまた違っており、リアルな中にある学びは全て自分の糧になりました。

卒業しこの春からは、公立置賜総合病院で初期臨床研修をスタートさせます。山形に残ろうと思った大きな理由は、教育熱心な先生方の存在でした。とりわけ、私の中でターニングポイントとなったのは、研究室研修の一環として、学会で論文を発表する機会を頂いたことでした。3年次にして学会に参加でき、視野が大きく広がりました。書き上げるまで丁寧に指導してもらった上、挑戦を後押ししてくれる先生や先輩方の姿勢にも感銘を受けました。同じ呼吸器内科の医師として、山形で成長していきたいと進路を定めることができました。

理想としている医師像は「患者さんに寄り添える」医師。呼吸器内科の領域では肺がんが、がん死亡数の第1位です。患者さんのそばで医師として研さんを積み、地域の方々からの信頼を積み上げていきたいです。

企画・制作／山形新聞社広告局



山形大学医学部長
上野 義之氏

山形大学医学部では、コロナ対応と並行しながらその使命である「教育・研究・診療」において最先端を追求し続けています。山形大学医学部が目指す姿、そして医師としての一歩を踏み出す学生の抱負をお聞きしました。また、専門ごとの先進的な取り組みについて紹介します。

山形大学医学部では15年にわたり附属病院と学部棟の改修を進めてきました。その最終段階として、新年度から、事務棟と医学部会館を再編し「YU・MAIセンター」(※)を創設します。これは、小白川キャンパス全体をイノベーション・コモンズ(共創拠点)とする考えと同様に、「社会に開かれた医学部」の拠点となる施設です。例えば卒業生や医療者のリカレント教育の場、コホート研究の成果をフィードバックする場。医学部が50年かけて積み上げた「知」を提供し、県民の皆さんと一緒に大学をつくっていく。そういう場に加え、コロナ禍を経て、持続可能な教育、そして医療を実践するためのプログラムを開発することも大切なミッションです。例えば、今学生たちは県内各地の病院で実習を行っています。その成果を教員がオンタイムで把握することも可能になります。どこに住んでいても最適な医療を受けられる社会の実現のため、新しい地域医療のモデルを山形から開拓し、全国へ発信していきます。

教育、研究、高度医療。そのいずれもが医学部の使命です。山形大学が、地域の方々とともに最も必要とされる教育機関であり、医療機関であり続ける。そのゴールに向かって多くのステークホルダーの方々を取り組んでいきます。

(※) Yamagata University faculty of Medicine Advanced Innovation Center

「山形大学医学部教育が目指すもの」

山形大学医学部教務委員長
免疫学講座 教授 浅尾 裕信氏



山形県内唯一の医学部として山形大学医学部は、カリキュラムの中に独自の視点や制度を取り入れています。例えば「スチューデントドクター」。臨床実習に入る医学部生を認定する制度で、社会と患者さんに対して、医学部が一定レベルの知識と技量を有していることを保証するものです。これにより学生は臨床現場でチームに加わって学びます。実践の中で医師を育てる最先端の医学教育システムであり、2009年に日本で初めて山形大学がスタートさせ、全国へと広がってまいりました。

また、長期にわたる臨床実習を行うのも山形大学の大きな特徴です。74週という期間は日本の大学の中でも有数の長さ。見習い型(ヘッドサイド)の19の診療科を2週間ずつ(2週間)を経て、診療参加型のクリニカルラックシップ(興味のある九つの診療科を4週間ずつ)では附属病院のほか、「地域で学生を育てよう」というコンセプトの下、県と連携し、県内14の病院で実習できる態勢を整えています(広域連携臨床実習)。

さらには国際レベルの医学教育に対応するため、東北地方の大学ではいち早く、16年度に日本医学教育評価機構による外部評価を受けました。

時代を先取りするこうした教育プログラムを通して実現したいのは、「自ら考え解決する力を持つ医師」を育成すること。そして何より、建学の精神にある「人間性豊かな医師」、特に共感力のある医師をここに山形で育てていきたいです。

街が動き出す
いつもの朝
昨日とは違う朝
街の鼓動を感じ
新しい一日がはじまる
今日も 明日も

暮らしに寄り添う
荘内銀行

挑戦が、
やまがたを
強くする。

山形銀行

お客様が満足する
質の高い情報とサービスを
タイムリーに提供します

病院内の環境管理、感染予防
環境関連の測定・分析業務
労働安全衛生法作業環境測定
室内化学物質濃度測定
浴槽水等のレジオネラ属菌検査

株式会社 テトラス
TEL023-643-3226

山形ビルサービス、山形警備保障、東北レンタル

「人・夢・エネルギーの調和」
をめざして

SUN ENE GROUP

山形酸素株式会社
山形市久保田1-7-1 TEL023(645)0411代

わたしたちは…
病院内の『あつてよかった』を
つくっています

一般財団法人
楽山会 rakuzankai

〒990-9585
山形市飯田西二丁目2番2号
(山形大学医学部附属病院内)
☎(023)631-8133

この街の
未来、
つくって
いこう。

自分たちの大切なふるさとをつくる

山形建設
山形市清住町1-2-18 TEL023-644-5208
www.yamagatakensetsu.co.jp

みなさまの御利用
おまちしております。

**山形大学病院内
簡易郵便局**

〒990-2331 山形市飯田西2-2-2
TEL023-631-1103 FAX023-631-1107
営業時間 9:00~16:00(平日のみ)

DOUTOB
「春の桜をイメージした和の
スイーツドリンク」好評発売中!

ドトールコーヒーショップ 山形大学病院店

日米商事株式会社
〒990-2214 山形市大字青柳字一本木85
TEL023-687-5555 FAX023-687-5550

未来のダイナミックな
テクノロジーに
ワイムの配電盤事業

配電盤、動力盤、分電盤メーカー
ISO9001取得 ISO14001取得

株式会社 ワイム

【本社・山形工場】山形市十文字 1318-5
TEL.023-686-4316 FAX.023-685-1011
【千歳工場】北海道千歳市泉沢 1007-72
TEL.0123-28-3377 FAX.0123-28-3379

http://www.yamagatadenki.co.jp

健康経営優良法人
2022
「心と体がうらやましい」クアオルトかみのやま

上山市

※クアオルトとは、ドイツ語で健康保養地の意味。

今こそ、**OBISAN**
環境改革。

ヒトを活かす、オフィス環境のご提案 リモートワークDXのご提案

オビサン株式会社 ビジネスソリューション事業部
〒990-0071 山形市流通センター1-9-2 TEL.023-633-5511

山形・上山・天童の三市を拠点とした山形県の観光ポータルサイト

VISIT YAMAGATA

山形好きによる
山形情報続々発信中!!

山形観光の有名スポットから知る人ぞ知る情報まで
山形在住・出身のライターや編集部が取材した
「特集記事」を随時更新しております。

「体験予約」情報も
絶対受付中!

おもてなし山形
山形市本町2丁目4-3 本町ビル3F TEL023-631-9522(代)

「健康医療先進都市」の確立に向けて

山形市

山形市旅籠町二丁目3番25号
☎023-641-1212

おいしきはゆたか。
ヤガイ
https://www.yagai.net/

〒990-9582 山形市富神台8番地 TEL:023-643-7735

山形を
ウェブで
紹介する
WEBメディア

山形会議
yama-gata-kaigi

お客様が
「伝えたい」想いを
全力で伝えます。

FUJISHO
本社/蔵王の森工場/東京支店/仙台支店/郡山支店
第三印刷株式会社(山形印刷)印刷部(印刷)を承継しています
本社/山形市あこや町3丁目18-30

リハビリテーション

ロボットやバーチャル最先端機器がサポート

山形大学医学部 附属病院副院長
整形外科学講座 教授 **高木 理彰**氏

リハビリテーションの目的は、病気や事故で起きた身体機能・精神機能の低下を回復させ、可能な能力を最大限活用して身の回りの動作が円滑に行えるようにすること。大病院のリハビリは運動器、心臓、脳血管、呼吸器、がんなど多岐にわたるが、共通していることは急性期からのリハビリが重要であることだ。入院中や術後、体を動かさない期間が長くなるほど筋肉が固くなり、体の機能が低下する。そこで各科と連携を図りながら、できるだけ早期に開始する。手術の当日、さらには集中治療室でリハビリを行うのも、もはや当たり前だ。

またロボットスーツHAL®(医療用下肢タイプ)、バーチャルリハビリシステムなど最先端機器によるリハビリも、大病院ならではの。ロボットスーツは体に流れる微弱な信号を感知し、動きをアシスト。立ち上がりや歩行障害を改善していく。脊髄性筋萎縮症など八つの疾患で保険適応となっており、2019年の導入以降、17人の患者が利用した。これら機器を組み合わせることで、一人一人に最適なリハビリ治療を提供している。

患者の生活の質に深く関わるリハビリテーション。高木教授は留学先のヘルシンキで、福祉の充実に基づく豊かな暮らしに触れ、その重要性を再確認した。整形外科の臨床の現場に在りながらリハビリテーション部の充実に力を注ぎ、かつて3人ほどだった療法士は現在30人ほどに。明るい日の光が差し込むリハビリルームで、生き生きと仕事に励んでいる。患者が元気になり、次の目標を見つけて生活に戻っていく。それが高木教授の最大のモチベーション。「リハビリを勉強する人。実践する人。次世代を担う人材を育てていきたい」と話した。



高木教授(右から2人目)とHAL®チームのスタッフ

(profile) 1961年、北海道生まれ。山形大学卒。ヘルシンキ大学院修了。山形大学医学部附属病院リハビリテーション部助教を経て2012年から現職。



褥瘡(じよくそう)予防や創傷治癒促進の看護ケア技術の開発にも取り組む松田教授

(profile) 1970年生まれ、山形県出身。山形市立病院済生館高等看護学院、山形大学看護学科卒。山形大学大学院修了。2017年から現職。

この動きを先取りし、1年前倒しで在宅看護教育の充実を図ったのが山形大学だ。解剖生理学などの専門的な知識、疾病・心理についての幅広い知識を駆使し、現場での判断を基に、患者の心身と生活を安定させる適切な

在宅看護を創れる看護師。多職種連携のキーパーソンとなり、医師との調整・相談ができる高いコミュニケーション能力も備えた看護師。「そうした看護師が専門職として在宅の患者さんの療養生活の質を上げることで、山形大学で高度な医療を受けた患者さんが、安心して地域で暮らし続けられる社会の実現に貢献できる」と松田友美教授。

松田教授は看護学校卒業後、病院で10年間働いた後に山形大学に編入した経歴を持つ。最新の知識を得て看護ケアに生かせる大学での学びは、感動の連続だった。教育・研究の道に進んだ今もフットワーク軽く、大病院の回診や、地域の在宅看護現場に出向く。そこで築いた人との関係性が、コロナ禍でもオンライン

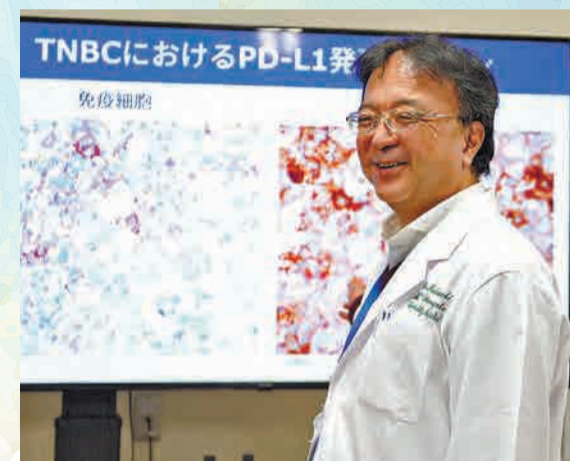
在宅看護学実習をいち早く可能にして教育効果を上げた。看護職の魅力を学生に伝え活躍の舞台を広げるために、大学のリソースを地域に還元するため、今日も走る。

※撮影時のみマスク外す

看護

未来の看護 創造できる看護師を育成

山形大学医学部 看護学科 地域看護学講座
教授 **松田 友美**氏



(Profile) 1963年生まれ、大阪府出身。名古屋大学卒。同大准教授、長崎大学准教授を経て2020年から現職。

遺伝子解析やAIを武器に がんの弱点を見つける

山形大学医学部 病理診断学講座 教授 **二口 充**氏

ドラマ化もされた漫画「フレンジー」で描かれた「病理医」。患者の体から採取した細胞などを観察して病気の種類や良性・悪性などを診断し、適切な治療を支える。このため「ドクターオプドクター」と呼ばれることもある。

また大学として力を入れているのは、遠隔診断だ。病理医の数は全国で2600人程度とされ、常勤医不在の中核病院も少なくない。そうした病院は大学に細胞の標本を送り、病理診断を受けている。二口教授はそのやりとりのオンライン化を進めており、遠隔での術中迅速診断(病変や転移の有無などを手術中に調べる)もスタートさせた。

その「診断」というミッションから一歩踏み出し、二口教授らが取り組んでいるのは「がんの弱点探し」だ。がんの中にはどうしても、薬が効かないがん細胞がある。AIも駆使して詳しく調べたところ、そのがん細胞は正常な免疫細胞を「盾」にしたたり、疫細胞を「盾」にしたたり、細胞が「子分」のがん細胞を犠牲にして、最新の抗がん剤からも身を守っていることが分かってきた。そこで盾を無効にしたり、親分がん細胞を狙い撃ちする「遺伝子」を特定する研究を進めている。弱点となる遺伝子が分かれば、抗がん剤から身を守り潜んでいたがん細胞も狙い撃ちすることで、

全てのがん細胞を攻撃できるかを攻められるかもしれない。こうして最先端の病理医は、デジタル技術を武器に遺伝子レベルで病気のメカニズム解明に迫っている。



※撮影時のみマスク外す

遠隔での術中迅速診断。県内の病院で手術中に採取した細胞のデータが大学に到着すると、スタッフがすぐに病変を確認。診断結果を電話で連絡していた

地域とともに築く看護



公益社団法人 山形県看護協会

会長 若月 裕子

山形市松栄1-5-45 (アルカディアソフトパーク山形内) ☎023-685-8033

早期発見が大事です！ 定期検診を受けましょう。



一般社団法人 山形市医師会
山形市香澄町2-9-39 TEL023(641)3650
http://www.yamagatashi-ishikai.or.jp/

山形市医師会 健診センター
山形市南館5-3-10 TEL 023(645)7222

かかりつけ歯科医院に 定期的に通い、ずっと笑顔で “健康長寿”を目指しましょう！

一般社団法人

山形県歯科医師会

山形市十日町2丁目4-35 ☎023-632-8020
http://www.keishi.org

山形県民のみなさまの 健康のために



一般社団法人 山形県医師会

会長 中目 千之

山形市松栄1-6-73 TEL023-666-5200
FAX023-647-7757
https://www.yamagata.med.or.jp/

皆様の健康と命を守り、 医療を通じて 心の支えとなる病院

私たちは、地域住民に信頼され、 安全で安心な 笑顔の病院をめざします。



寒河江市立病院 Sagae City Hospital

病院事業管理者 久保田 洋子
院長 後藤 康夫

内科・整形外科・外科・皮膚科・眼科・リハビリ科

〒991-8508 山形県寒河江市大字寒河江字塩水80番地
電話 0237-86-2101 ファックス 0237-86-9578

鶴岡市立荘内病院

鶴岡市病院事業管理者 八木 実
院長 鈴木 聡
〒997-8515 鶴岡市泉町4-20
TEL0235-26-5111(代表)
FAX0235-26-5110

一般社団法人 鶴岡地区医師会 (管理・運営)

鶴岡市立 湯田川温泉 リハビリテーション病院
院長 武田 憲夫
〒997-0752 鶴岡市湯田川字中田35-10
TEL0235-38-5151
FAX0235-38-5152



地域医療連携推進法人 日本海ヘルスケアネット

地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構

理事長 栗谷 義樹

日本海総合病院

病院長 島 貫隆夫

日本海酒田リハビリテーション病院

病院長 鈴木 晃

日本海八幡クリニック等診療所

院長 土井 和博

升田診療所・青沢診療所・松山診療所・地見興屋診療所・飛鳥診療所

北村山公立病院 Kitamura Hospital

〒999-3792 東根市温泉町二丁目15番1号
TEL.0237-42-2111(代) FAX.0237-43-6169

https://www.hosp-kitamura.jp/

山形の未来医療を語る

山形大学医学部PR特集



がんの根治に挑むチーム。
(左から)北中教授、須貝明日香さん、岡田雅司講師

(profile) 1962年生まれ、大阪府出身。東京大学卒、脳神経外科専門医。国立がんセンター研究部長などを経て2004年から現職。

がんの根治という、北中教授が着目したのは、がんの「幹細胞」。がん細胞は実は、幹細胞と呼ばれる「女王蜂」のようなもので、洞窟を行く探検家のような。がんの克服を目指す、北中千史教授の歩みは、北中千史教授の中で「なぜ？」の扉を片っ端からたたき、手探りで探り当てた新規治療法への道。糖尿病の薬でがん幹細胞を変化させ、がんの根治を目指す独創的な研究は、10年以上の歳月をかけ徐々に、必要とする患者の元へと近づきつつある。

北中教授が着目したのは、がんの「幹細胞」。がん細胞は実は、幹細胞と呼ばれる「女王蜂」のようなもので、洞窟を行く探検家のような。がんの克服を目指す、北中千史教授の歩みは、北中千史教授の中で「なぜ？」の扉を片っ端からたたき、手探りで探り当てた新規治療法への道。糖尿病の薬でがん幹細胞を変化させ、がんの根治を目指す独創的な研究は、10年以上の歳月をかけ徐々に、必要とする患者の元へと近づきつつある。

2022年4月、研究はようやく臨床試験のステージへと上がった。現在、薬の安全な投与量を検証する第1段階が進行中だ。今後人体でも薬が期待通りに効くことが分かれば「女王蜂変化作用理論」の、世界初の証明となり、原理原則が実証されれば、ほかのがんにも応用が広がる。探検家が目指すのは、がんの根治というかつて誰も見たことがない絶景。あくなき探究心と、患者をよくしたいという思いを原動力に、山形で新しい地図を描き続ける。

がんの創薬

がんの根治という未開の絶景を目指し

山形大学医学部 腫瘍分子医科学 教授 北中千史氏

脳神経内科

山形だからこそできる研究がある

山形大学医学部 内科学第3講座 脳神経学分野 教授 太田康之氏



患者に触れ、動作を確認するだけで分かる疾患がたくさんある、と話す太田教授

(profile) 1974年生まれ、大阪府出身。岡山大学卒。カナダ・ラバウル大学研究員、岡山大学病院講師などを経て2020年から現職。

脳神経内科は、全身を診る診療科なのだ。神経、筋は全身に分布し、脳の影響は全身に及ぶからだ。筋萎縮性側索硬化症(ALS)といった難病をはじめ、脳卒中や認知症といった日常的な疾患まで、テリトリーは広い。

その中で、着任2年目の太田康之教授は「山形に根差した研究をしたい」と話す。そうした思いから取り組んでいるのが、歩行パターンに基づく認知症の診断法の開発だ。山形大学コホート研究で協力関係がある高島町で、約1年かけて町民約1000人の歩行動作を撮影。AIで動画を解析した。アルツハイマー病は初期段階で歩行機能の低下が現れる

ことが多く、パターン化することで早期診断につながる。増えている疾患を対象に、山形だからこそできる研究を進める。成果を県民に還元し、山形県に貢献したい」と話す。

また2022年4月、山形大学医学部附属病院に新設された難病診療連携センターのセンター長に就いた。各医療機関や団体をつなぐハブとして、大学に集積された知見を生かし、患者の支援に取り組む考えた。

学生に伝えているのは、とにかく目の前の患者をよく診る、ということ。どんなにデジタル化が進んでも、検査の数値や画像データがなくても、観察から分かることがたくさんある。「全身を診る」と診療は、突き詰めていくと「人とは何か」の探究もあり、そこが醍醐味なのだという。

産婦人科 思春期から老年期まで女性の生涯を支える

山形大学医学部 産科婦人科学講座 教授 永瀬 智氏

産婦人科は、思春期から老年期まで、女性の生涯を支える診療科だ。生殖医学、周産期医学、婦人科のがん、加齢に伴うヘルスキアなどその範囲は広い。山形大学では各分野に専門医が在籍し、診療と教育を提供している。

例えば子宮筋腫の腹腔鏡手術。従来、開腹手術でなければ難しかった症例にも内視鏡でアプローチする。その技術は、術後の回復に圧倒的な優位性をもたらす。同様に体への負担が少ない子宮体がんのロボット手術も、実施例は50例を超え技術的に安定している。

また4月から公的保険の適用が拡大される不妊治療でも、県内をリードする。体外受精は年間250~300例を実施。治療前に内視鏡でおなかの中の状態を評価し、最適な提案を重視している。県民向けの不妊相談は、コロナ禍でオンラインに切り替え実施し、毎月の参加申し込みが途絶えない状況だ。

加えて永瀬教授が「病院として誇れる取り組み」と胸を張るのが、超緊急帝王切開への対応だ。お産中、1秒でも早く赤ちゃんを出さなければならない状況になったとき、担当医は「超緊急帝王切開」を宣言する。山形大学ではその宣言から赤ちゃんが生まれるまで、20分かからない。6階の分娩室から3階の手術室への移動、手術室の準備も含め極めて短時間で遂行できるのは、病院を挙げた協力態勢と年2回の訓練、そして「エレベーターを開けておく係」も存在する綿密なシミュレーションのたまものだ。「その時々で最新の医療を提供し、安全も追求していく。女性が生き生きと活躍できる社会、ひいては山形の発展に貢献したい」

永瀬教授(左)。県内の産婦人科医療を支え、世界で競争できる人材の育成を講座のミッションとしている。



(profile) 1967年生まれ、山形県出身。東北大学卒。同大学院修了。同大准教授などを経て2014年から現職。

社会福祉法人 山形済生会
山形済生病院
院長 石井 政次

きくち内科医院
院長 菊地 義文
山形市松見町16-24 (旧岡田医院)
☎(023)664-1285

鈴木外科胃腸科医院
院長 鈴木 明彦
☎023-623-1966

医療法人社団 **清永会**
矢吹病院
☎023-682-8566

りんごとワインの里
朝日町立病院
院長 小林 達
☎(0237)67-2125

県民の医療を守る
山形県保険医協会
https://www.hokeni-yamagata.jp/

〒990-8545 山形市沖町79-1
TEL023-682-1111代
https://www.ameria.org

かわぞえ嶋北泌尿器科内科クリニック
院長 川添 久
TEL023-665-1660
https://www.kawazoe-clinic.com

さとこ女性クリニック
院長 井上 聡子
TEL023-687-0213
http://www.satoko-clinic.info

一般財団法人 **三友堂病院**
理事長 仁科 盛之
TEL992-0045
https://sanyudo.or.jp

Oguni town hospital
山形県小国町 **小国町立病院**
院長 伊藤 宏
TEL0238-61-1111

一病院基本理念
『地域住民から信頼される病院』
白鷹町立病院
TEL992-0831

医療法人 篠田好生会
篠田総合病院
院長 篠田 淳男
TEL023-623-1711代
https://www.shinoda-hp.or.jp

病院の理念
『心温かい 信頼の医療』
東北中央病院
院長 田中 靖久
TEL(023)623-5111
https://tohoku-ctr-hsp.com/

* 悠愛会理念 *
『ゲストは恋人』
大島医院
TEL641-6419

医療法人 横山厚生会
横山病院
TEL023-622-3415
https://www.yokohosp.com

医療法人社団 松柏会
至誠堂総合病院
理事長 中島 幸裕
院長 小林 真司
TEL023-622-7181

社会医療法人 **みゆき会**
https://www.miyuki.or.jp
みゆき会病院
TEL023-672-8282
みゆきの丘
TEL023-672-8585
紅寿の里
TEL0237-73-5850
南館クリニック/ライフケアセンター-南館
TEL023-647-7555

体への負担が少ない カテーテル心臓弁膜症治療

山形大学医学部 内科学第一講座 助教 田村 晴俊氏

心臓の低侵襲治療を推進している第一内科。特に心臓弁膜症に対しての低侵襲治療の発展は著しく、2017年の大動脈弁狭窄症に続き、21年6月からは僧帽弁閉鎖不全症のカテーテル治療をスタートさせた。僧帽弁閉鎖不全症は高齢者に多く、軽症を含めると75歳以上では10人に1人がおこしているといわれる。しかしこれまで開胸して人工心臓を用いる大がかりな手術が必要で、リスクが高い高齢者は治療を諦めざるを得ない人も多かった。ひどい息切れなどの症状があっても「我慢して、静かに暮らす」が対処法だった。

一方でカテーテル治療は、開胸の必要がなく出血の危険性も少ない。手術の翌日には歩ける人がほとんど。これまでの治療のステージが上がってこなかった患者も、つらい症状の改善が期待できるようになった。山形大学が県内で先行導入し順調に手術件数を伸ばしているのは理由がある。まずはハイブリッド手術室の有無といった施設条件。もう一つは術者の技能やチーム医療といったソフト面。開胸しないカテーテル心臓弁膜症治療は、超音波の画像を頼りに手術を進めるため、術者とエコー医との高度な二人三脚が必要だ。さらに、心臓外科医や麻酔科医、レントゲン技師、臨床工学技士、看護師らを加えた「ハートチーム」を形成し、密な連携をとることで、安全かつ有効な治療となっていく。



(profile) 1978年、群馬県生まれ。山形大学卒。県内でのカテーテル心臓弁膜症治療をリード。僧帽弁閉鎖不全症の治療はこの半年で9例に達した。

どんな子どもも 誰一人取り残さない

小児科

山形大学医学部 小児科学講座 教授 三井 哲夫氏

医学の進歩やワクチンの発達で、病気になる子どもは減り、治る病気が増えた。しかしいまだに、治療困難な病がある。何万人に一人がかかる病がある。そうした病が三井哲夫教授は希少難病疾患に対し、全国・世界レベルでの協働が大切だと、日本小児がん研究グループに発足当初から所属。現在約40の臨床研究に参加し、山形に最新の成果を持ち込んでいる。また、新規の治療法ができて、そこにアクセスできなければ意味がない。脊髄性筋萎縮症などの疾患の早期

治療につなげようと、県内で、新生児のうちに遺伝子変異をスクリーニングできる体制を整えた。治療法については、山形大学で治療を開始した重粒子線に期待を込める。これまで治療が難しかった体幹部の軟部組織腫瘍に効果があることが見込まれている。小児に多い横紋筋肉腫や骨軟部腫瘍などの新規治療法にも道を開くべく、全国の施設と協働し研究に取り組み考えている。



(profile) 1962年生まれ、東京都出身。山形大学卒。東京大学医科学研究所客員研究員などを経て2014年から現職。

難しい病気を 諦めず、道を開く

第一外科

山形大学医学部 外科学第一講座 教授 元井 冬彦氏

元井冬彦教授が2020年に着任した第一外科が大抵なテーマとしていたのは「低侵襲治療と難病がんの克服」だ。「低侵襲」の象徴は、ロボット手術。手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を使い、県内で初めて胃がん、直腸がんのロボット手術をスタートさせた。実施件数はそれぞれ20例を超えた。春からは食道がんでも実施する。

3ヶ月四方の紙で折り鶴を折れるとされるロボットアームは、特に体の狭い場所や奥にある臓器で威力を発揮する。直腸がん手術で人工肛門の造設を回避できた事例も。術後の生活におけるアドバンテージも大きい。また、ダ・ヴィンチの遠隔操作システムは、医学教育にも革新をもたらしている。学生らは手術中に、操作コックピットの前で隣で同じ動きをシミュレートできる。「見て覚える」だった術技のトレーニング法も変わりゆく。



(profile) 1967年生まれ、新潟県出身。東北大学卒。同大学院修了。米カリフォルニア大学、東北大学大学院准教授などを経て2020年から現職。

前立腺がんの重粒子線治療を より身近なものへ

山形大学医学部 放射線医学講座 講師 佐藤 啓氏

山形大学医学部と東芝エネルギーシステムズが開発を進めてきた重粒子線がん治療装置が、前立腺がんの治療を開始したのが2021年2月25日。

それから約1年。607人の前立腺がんの治療申し込みがあり、既に315人が3週間の重粒子線照射を完了した(いずれも22年3月18日時点)。そのペース

は当初計画を大きく上回る。患者は県内在住が8割で、そのうち7割が県内の基幹病院からの紹介だという。

未来の医療としての可能性を感じ、放射線科医の道に進んだ佐藤医師は「体への負担が少ない最先端がん治療を、ぜひ選択肢の一つに考えてほしい」と話す。治療元年を無事に乗り切り、今後は患者中心の地域医療連携体制の整備に

も力を注ぐ。特に、基幹病院から紹介され重粒子線治療を受けた患者が、大学病院と地域の「かかりつけ医療機関」とで診療を受けられる体制を整えたい考えだ。そうすることで重粒子線がん治療は、市民にとってより身近な治療法となっていく。

(profile) 1980年、山形県生まれ。新潟大学卒。同大学院修了。新潟県立がんセンターなどを経て2016年から山形大学。



重粒子線治療後の地域医療連携体制の整備にも力をいれたいと語る佐藤医師

FUJITSU

その人は、DXと笑顔を手を叶える人。

日本の隅々まで幸せにしたい。その思いを胸に、日本全国で活動する、富士通 JapanのDX専門人材。たとえば、北海道の神恵内村にも、ひとりの社員が派遣されています。産業、教育、医療、交通など、DXにできることはたくさんあります。でも、いちばん大切なのは、村の人々を笑顔にすることだとその人は言います。

日本の幸せの隅々に。



富士通Japan株式会社

お問い合わせ先: お客様総合センター 0120-835-554
ご利用時間: 9時~12時、13時~17時30分
(土曜日・日曜日・祝日・当社指定の休業日を除く)



神恵内村のDX篇CM

私たちは信頼される放射線技術を提供します

一般社団法人 山形県放射線技師会

会長 佐藤 晴美

山形市飯田西2-2-2
山形大学医学部附属病院放射線部内
<https://yamahogi.jp>

安心の先にある幸せへ。

笑顔、夢、希望がふれる毎日と未来のために、私たちは生命保険の枠を超えて、一人ひとりの「クオリティ オブ ライフ(QOL)」の向上に貢献していきます。

第一生命保険株式会社 山形支社

〒990-0031 山形市十日町1-1-34 山形駅前通ビル
TEL023-631-5711(代)

山形県弁護士会会員

古澤・内藤法律事務所

代表弁護士 内藤 和暁
弁護士 小野 寺弘行

事務所/〒990-0055 山形市相生町6番56号 TEL023-631-7507
FAX023-631-7174

ちょっとした安心をあなた自身で作れる保険です。

Hello Kitty 未来のとびら

特約組立型総合保険

山形支社オリジナルご当地キティ
Hello Kitty
© 2022 SANRIO CO., LTD.
APPROVAL No. L621729

富国生命保険相互会社 山形支社
〒990-0043 山形市本町2丁目1番2号
☎023-631-3583 (専任: 014-0163 (2022.3.16))

「生きる」を応援する
充実のがん保障

がん共済

JA共済

JA共済連山形 / 山形市七日町三丁目1番16号
☎023-634-8250

●ご加入にあたりましては、お近くのJA(農協)へお問い合わせください。
■JA共済ホームページアドレス <https://www.ja-kyosai.or.jp>